

V 植物成長調整剤使用ガイド【掲載農薬一覧】

1 水稲

1 水稲

番 号	商 品 名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目 的・使用時期	使 用 方 法	毒 性	本剤の 使用回数	使 用 上 の 注 意 事 項	新規 改訂
(1) 苗								
1	1) ミネアンプル液剤 [S-327D]	ウニコリールP 0.025% 250倍	育苗期の徒長防止 催芽直前 は種量:催芽剤 75~400ml/箱	15~24時間種子浸漬 剤と薬液の容量比 1:1以上		1	1. 種籾を十分薬液に浸し、浸漬後の水洗いは行わない。 2. 覆土が厚くならないように注意するとともに、第一鞘高を伸ばさないよう温度管理に注意する。 3. 稚苗のは種量では、育苗日数、追肥時期・量は中苗に準ずる。 4. 草丈が短くなるので田面の均平に努め、移植後の水管理に注意する。	
(2) 湛水直播(種籾)								
1	カルバー粉粒剤16	過酸化カルシウム 16.0% 乾燥種籾重量と等量	発芽率の向上 苗立ち歩合の安定 は種前浸種後	湿粉衣		1	1. 催芽籾はコーティング作業の3~4時間前から十分水切りする。 2. 専用のコーティングマシンを使用する。 3. コーティング種籾は十分陰干しし、表面が白くなくなってから網袋に入れ、風通しのよいところで保管する。ただし、コーティング2日以内には種する。	

2 畑作物

2 畑作物

番号	商品名 [試験薬剤名] (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒本剤の 使用 回数	注 意 事 項	新規 改訂
----	----------------------------	------------------------------	---------	------	------------------	---------	----------

(1) 春まき小麦

1	1 エスレル10 [エトホン液剤] -H18,H22	エトホン 10% 100～200ml	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 出穂始期(はじめて出穂を見た日から20%出穂日まで)	茎葉散布 散布水量:25L又は100L	1	1. 30%以上の出穂をみてからの散布は効果が劣るので、出穂20%までの出穂始の適期に散布する。 2. 低葉量では効果が劣ることがある。 3. 少水量散布の場合は、専用ノズルを使用する。 2. 低葉量では効果が劣ることがある。	
		エトホン 10% 200～333ml	茎稈伸長抑制 止葉期	茎葉散布 散布水量:25L又は100L			
2	2 カルタイムフロアブル [KUH-883(M)FL] -H23	フロヘキサジオンカルシウム塩 5% 150ml	茎稈伸長抑制 止葉期(止葉50%展開)～出穂始期	茎葉散布 散布水量:100L	1		
3	3 サイコセルPRO [BAW-0907液剤] -H25	クロルメコト 65.8% 150ml	茎稈伸長抑制 小麦6葉期前後 (草丈30～40cm)	茎葉散布 散布水量:100L	1	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びビミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがあるので晴天の日は、日中を避け夕方に散布する。 7. 春まき小麦を根雪前に区種する場合は(初冬播き栽培)には、春まき栽培に準じた使用量、使用時期で散布する。	

(2) 秋まき小麦

1	1 エスレル10 [エトホン液] -H2,H20	エトホン 10% 200ml(水量25L) 200～333ml(水量100L)	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 止葉期～出穂始期	茎葉散布 散布水量:25L又は100L	1	1. 30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので、適期に処理する。 2. 少水量散布の場合は、専用ノズルを使用する。	
2	2 カルタイムフロアブル [KUH-883(M)FL] -H21	フロヘキサジオンカルシウム塩 5% 150ml	茎稈伸長抑制、倒伏軽減 止葉期(止葉50%展開) ～出穂5日前まで	茎葉散布 散布水量:100L	1		
3	3 サイコセルPRO [BAW-0907液剤] -H26	クロルメコト 65.8% 150～200ml 200～300ml	茎稈伸長抑制 幼穂形成期 茎稈伸長抑制 麦出穂前20～10日 (草丈約40～60cm)	茎葉散布 散布水量:100L 茎葉散布 散布水量:100L	1) ¹⁾ 1)	1. 散布時期が遅れると効果が劣る。 2. 極端な多肥条件では、茎の伸張を抑制することは困難である。 3. 適期収穫を励行する。 4. 指定濃度を守り、重複散布にならないように葉面が均一に濡れる程度に散布する。また、散布直後に降雨があっても再散布は行わない。 5. 鉄砲ノズル及びビミスト機の使用は避ける。 6. 高温時の散布で葉害が生じることがあるので晴天の日は、日中を避け夕方に散布する。	

【概要】

1) サイコセルPROに係る総使用回数は2回以内。

(3) ばれいしよ

2 畑作物

2 畑作物

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒本剤の 使用 回数	使用上の注意事項	新規 改訂
1	石灰窒素50 〔石灰窒素粉剤〕 -H4	加水1kgあたり 50% 10～15kg/10a	茎葉枯凋 茎葉黄変期	上澄液又は粉状の全面茎葉散布	1	1. 石灰窒素を水溶液とする場合刺激臭のあるアンモニアガスが発生するので、嚙拌は必ず風通しのよい場所で行う。 2. 本剤を水に溶かすと沈殿物を生じ、上澄液は減少する。有効成分を溶かすためには沈殿物が固化するよう10a当り2時間位よく攪拌し、その後2時間放置し、上澄液を採取する。 3. 上澄液は10a当り100Lを均一に散布する。 4. 粉状散布の場合は、降雨、朝露等でばれにくい茎葉が十分湿っている時、又は茎葉に散水して水分を付着させてから行う。 5. 降雨直前の散布は避ける。 6. 作業に際しては、保護メガネ、作業用マスク、不透水性手袋、長ズボン、長袖の作業衣、ゴム長靴等を着用する。	
2	デコシ乳剤 〔NH-611乳剤〕 -H17	ヒラフルフェンエチル 0.4% 250～450ml/10a	一般栽培における茎葉枯凋促進 茎葉黄変期 (茎葉黄変始め～収穫3日前まで)	茎葉散布 散布水量:100L/10a	2	1. 降雨が予想される場合は、散布を避ける。 2. 土壌が極端に乾燥しているときの使用は避ける。 3. 枯凋効果は、散布後3日前後から発現し、8～10日でほぼ完成する。 4. 1回処理を原則とするが1回で不十分な場合に限り2回目の散布処理を行う。なお、2回目処理の使用時期は、1回目処理後3～6日に散布する。	
		[1回目] 450ml/10a [2回目] 250～450ml/10a	採種栽培における茎葉枯凋促進 〔1回目散布〕 開花期後30日以降(茎葉繁茂期) 〔2回目散布〕 1回目散布後の3～6日後 収穫3日前まで	茎葉散布 散布水量:100L/10a	2	1. 降雨が予想される場合は、散布を避ける。 2. 土壌が極端に乾燥しているときの使用は避ける。 3. 枯凋効果は、散布後3日前後から発現し、8～10日でほぼ完成する。 4. 1回目処理の使用時期は、品種の早熟性により次のとおりを目安とする。 早生種:開花期後、30～35日/中生種:開花期後、35～40日/晩生種:開花期後、40～50日 5. 2回目の処理時期は、早い方が枯凋効果が高い。	

(4) てんさい

1	ミズアザミ液剤 〔S-327D液〕 -H9,H14,H19	ウニナリMP 0.025% 【噴霧処理法】 10～20倍 (原液2.5～5.0ml/冊) 【灌水処理法】 100倍 (原液5.0ml/冊)	育苗期の伸長抑制 本葉抽出期(本葉長2mm以上)～移 植2週間前	茎葉散布 【噴霧処理法】 ペーパーポット1冊当たり希釈10～20 倍液を散布水量50mlで噴霧散布。 【灌水処理法】 ペーパーポット1冊当たり希釈100倍 倍液を散布水量500mlで灌水散布。	1	1. 本剤を所定量の水にうすめ良くかき混ぜてから散布する。 2. 本剤は強い化学活性があるので使用量を遵守する。 3. てんさい以外の作物にも影響を及ぼす恐れがあるので、周辺作物へ飛散しないよう散布する。 4. 残液は作物の栽培される場所には処分しない。 5. 灌水処理法による徒長防止効果は、噴霧処理法よりやや劣る。	
---	-------------------------------------	---	--	--	---	---	--

3 野菜

3 野菜

番号	商品名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用 方法	毒性	本剤の 使用 回数	使用上の注意事項	新規 改訂
----	----------------------------	------------------------------	---------	----------	----	-----------------	----------	----------

(1) トマト

1	1 エスレル10 〔エトホン液〕 -S58	エトホン 10% 300～500倍(1果房5ml)	果実の熟期の促進 各果房の白熟期	白熟期の果房中心に散布(1果房当たり5ml)		1 果房につき1回	1. ハウス内処理は高温に注意し、散布後2～3日間は30℃以上にしないように管理する。 2. 白熟期となった果房以外の茎葉や上位段果房に散布液がかからないようにする。 3. 対象は生食用トマトであり、加工用トマトは適用外である。	
2	2 トマトーン	4-CPA 0.15% 低温時(20℃以下) 50倍 高温時(20℃以上) 100倍	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進 開花前3日～開花後3日位	芽や幼葉にかからぬように噴霧(花房又は花が濡れる程度)		1 花房につき1回	1. 処理時に生長点や若葉にかからないように注意する。 2. 同じ花房に重複散布しない。	

(2) メロン

1	1 フルカタ液剤 〔KT-30S液〕 -S63,H3	赤カワロウエンロン 0.1% 250ppm(果房部散布) 50～100ppm(子房部散布)	着果促進 開花前日又は当日 (キングアルティイ)	果房部散布 子房部散布		1	1. 品質低下防止のため、人手あるいは訪花昆虫による受粉を併用する。 2. 補度の低下、ネットの発現不良などを生じることがある。 3. 果房部散布では、塗布量が多いと果房部の肥大などの葉害を生じるので、つけすぎないように注意する。 4. 子房部散布では、柱頭にかからないように子房部の両側から散布する。	
---	----------------------------------	---	--------------------------------	----------------	--	---	--	--

(3) キャベツ

1	1 ミズランP液剤 〔S-327D液〕 -H11,H17	ウレコナーJP 0.025% 250～1,000倍	育苗期の徒長防止 播種後出芽前	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml土壌灌注		1	1. 本葉2葉期処理に比べて徒長防止効果が高いが、生育がやや遅れることがある。	
2	2 ビエラP707アル 〔KUJH-833FL〕 -H15	フロヘキサジオンカリンゲム塩 1% 50～100倍	育苗期の伸長抑制 定植前子葉展開期～本葉3葉期	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml茎葉散布		1	1. 散布水量100ml/トレイおよび使用濃度250倍散布では、定植後に長く生育抑制が残ることがある。 2. 処理時期が遅れると定植後に長く生育抑制が残ることがある。	
			伸長抑制による苗の徒長防止 子葉展開～本葉2葉期	育苗トレイ(30cm×60cm)1枚当たり50 ～100mlを茎葉散布		1	1. 子葉展開期処理は本葉2葉期処理に比べ、本葉等の伸長抑制効果が大きい。 2. 伸長を過度に抑制させないために、多量・重複散布しない。	

(4) レタス

1	1 ミズランP液剤 〔S-327D液〕 -H20	ウレコナーJP 0.025% 250～1,000倍	育苗期の伸長抑制 播種後出芽前	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml土壌灌注		1	1. 土壌灌注による処理の場合は、所定量の水に希釈し、鉢土全体に均一に灌注すること。土壌が過湿状態の時は、使用を避けること。 2. レタスに使用する場合は、早期に処理するほど生育が遅れる場合があるので留意すること。	
			育苗期の伸長抑制 定植前子葉展開期～本葉2葉期	セル成型育苗トレイ、ペーパーポット (30cm×60cm、使用土壌約1.5～4L)1 枚当り50～100ml茎葉散布			1. 茎葉散布の場合は、植物体全体特に新葉部に均一にかかるようにすること。 2. レタスに使用する場合は、早期に処理するほど生育が遅れる場合があるので留意すること。	

(5) かぼちや

1	1 エスレル10 〔エトホン液〕 -H16	エトホン 10% 500倍(20ml/株)	西洋かぼちやの雌花花成促進 子蔓4葉期 (親蔓摘心子蔓2本仕立て)	茎葉全面散布		1	1. 散布した株は雄花が正常に開花せず、花粉が得られないため、受粉のための無処理株を用意する。 2. 親蔓摘心、子蔓2本仕立てを行う。一株当たりの着花数が通常より多くなるため、摘花果)による清果制限(1蔓当たり2果程度)を必ず行い、施肥などの管理を適切に行う 3. 散布時あるいは直後に極端な高温または低温、あるいは降雨が予想される時は効果が不安定となるため散布は避ける。	
---	-----------------------------	--------------------------	---	--------	--	---	--	--

(6) たまねぎ

1	1 ミズランP液剤 〔S-327D液〕 -H20	ウレコナーJP 0.025% 1.0～2.5ml/トレイ	たまねぎ成型ポット育苗時の徒長防止 播種時	育苗土調整時に所定量(1トレイ当たり製品1.0～2.5ml)を混和		1	1. みのるタマネギ専用培土を使用した試験結果である。 2. 高葉量ほど徒長防止効果は高いが、下位葉に黄化やねじれが発生する場合はある。 3. ハエ類の発生が多い場合には防除の徹底に留意する。	
---	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------	-----------------------------------	--	---	--	--

4 果樹

4 果樹

番号	商品名 【試験薬剤名】 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目的・使用時期	使用方法	毒性	本剤の使用 回数	使用上の注意事項	新規 改訂
----	----------------------------	------------------------------	---------	------	----	-------------	----------	----------

(1)りんご

1	エコーキー [KC-1129] -H17	蟻酸カルシウム 98% 100～150倍	摘花 満開期(頂芽側花満開期及び腋芽満 開期)	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 葉液が柱頭に十分付着するように散布する。 2. 開花状況をよく観察し適期散布に努める。 3. 葉縁に褐変症状が生じることがある。	
2	ストポール液剤 [シ/ポルプロア] -S88	シ/ポルプロア 4.5% 1,000～1,500倍	収穫前落果防止 収穫開始予定日の25日～7日前 (但し、2回散布の場合は10日程度 間隔をあける)	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 果実の成熟促進効果があるので適期収穫に努める。 2. 極端な高温時の散布は避ける。	
3	ピオネ水溶剤 [AKD-8152] -H20	1-ナフタレン酢酸ナトリウム 4.4% [1回散布]1,000倍 [1～2回散布]2,000倍	収穫前落果防止 [1回散布] 収穫開始予定日の21～7日前 [2回散布] 収穫開始予定日の21～14日前及び その7～10日後	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 極端な高温時の散布は避ける。 2. 2,000倍2回散布は、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、1回目の散布 7～10日後に2回目の散布を行う。	
			収穫前落果防止 [1回散布] 収穫開始予定日の14～7日前	立木全面散布 10a当たり300～600L		2	1. 極端な高温時の散布は避ける。	
4	ピーエー液剤 [ハンゾルアミフロリン] -S89	ハンゾルアミフロリン 3% 【苗木の萌芽発生促進】 ふじ 100倍 つがる 50倍 【高接1年生枝の萌芽発生促 進】 50～100倍	苗木の萌芽発生促進 新梢50cm以上伸長期 高接1年生枝の萌芽発生促進 伸長旺盛期(6月上旬～7月下旬)	新たに伸長した新梢部に散布 5～10ml/苗木 立木全面散布 100～400L/10a 立木全面散布 200～700L/10a		10 1	1. 摘心を併用するとより効果的である。 2. 伸長の旺盛な新梢ほど効果が高く樹勢が弱いと樹枝は発生しにくい。 3. 未発芽の部分、落葉した芽の部分に散布しても効果は期待できない。 4. 調製した薬液は放置すると効果が低下するため、調製当日に使用する。また、調製後は日 陰に置くものとする。	

(2)ぶどう(デラウェア)

1	ジハレリン錠剤 ジハレリン粉末 ジハレリン錠 ジハレリン錠5 [ジハレリン]	ジハレリン 4.55% ジハレリン 3.1% ジハレリン 3.58% ジハレリン 2.78% 100ppm	無種子化果粒肥大促進 第1回目：満開予定日の約14日前 第2回目：満開約10日後	第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬		2回(但し開花 前1回・落花後 1回)・但し降 雨等により再 処理を行う場 合は合計4回 以内	1. 晴天日に処理し、処理当日20mm以上の降雨があった場合は、再処理する。 2. 樹勢の強すぎる樹や弱すぎる樹には処理しない。 3. 第2回目の処理は、葉液が付着しすぎると果面が汚れることがあるので、果房を揺するなど 余分な薬液を落とす。	
2	ピーエー液剤 [ハンゾルアミフロリン] -S54	ハンゾルアミフロリン 3% 300倍	露地栽培園ジベレリン処理時期の蒞 大 満開予定日の14～17日前 ハウス栽培の花震い発生園花震い 防止 満開予定日の14～17日前	花房浸漬 第1回目のジベレリン処理液に添加		1	1. 第1回目処理時のみに使用する。 1. 「デラウェア」の花震い防止対策として使用する。 2. 第1回目処理時のみに使用する。	

4 果 樹

4 果 樹

番 号	商 品 名 〔試験薬剤名〕 (指導参考年次)	有効成分名及び 含有量(%) 使用濃度(量)	目 的・使用時期	使 用 方 法	毒 性	本剤の 使用 回数	使 用 上 の 注 意 事 項	新規 改訂
(3) おうとう								
1	1 エスリル10 [エテホン] -S62	エテホン 10% 2,000倍	熟期促進 佐藤錦:満開後3週間 ナボレオン:満開後4週間	立木全面散布 10a当/㎡り300L		1	1. 低温・寡照の気象条件下では効果劣ることがある。 2. 処理によって熟期が3～5日促進されるので適期収穫に努める。	
2	2 サンキャッチャー液剤30S [MGC-140]	塩化コリン 30% 300～600倍	着色促進 収穫予定日の14日前及び7日前の2 回	立木全面散布 10a当/㎡り300L		2	1. 他の農薬と混用しないこと。	
3	3 ハウチアフロアル [PP-333] -H5	ハクロトリアール 21.5% 2,000倍	新梢伸長抑制 満開後3～5週間/ただし、収穫14日前 まで	立木全面散布 10a当/㎡り200～300L		2	1. 他の農薬と混用しないこと。	